

## 第2回 津山市教育振興基本計画検討委員会 会議録

○日 時 令和3年7月26日(月) 13:30～15:32

○場 所 津山市役所 202 会議室

○出席者

・津山市教育振興基本計画検討委員 8名

委員長 住野好久(中国学園大学・中国短期大学副学長)

副委員長 須江健治(株式会社すえ木工代表取締役社長)

委員 寺元貴幸(津山工業高等専門学校教授)

櫛田晃稜(津山市PTA連合会会長)

仁木かおり(津山教育事務所指導主事)

北山浩二(津山市立中学校長会長)、小池尚(津山市立小学校長会長)

矢野佳子(津山市立幼稚園長会長)

・事務局 教育長、教育委員会関係部課長等 10名

### 1. 開会

### 2. 委員長あいさつ

### 3. 前回委員会会議録の承認

一 全員挙手 承認

### 4. 議事

(1) 計画の全体構成(目次)について

(事務局説明)

- ・第3期津山市教育振興基本計画の目次案として、第2期計画との比較をしながら説明。
- ・第2期計画の生涯学習、スポーツ、芸術文化の施策や取組の部分は、機構改革により第3期計画においては教育振興基本計画の範囲に含めない。
- ・第1章で目指す教育や方針を掲げる。
- ・第2章でこれまでの取組や本市の状況等を記載する。
- ・第3章を、Ⅰ「教育活動の推進・充実」という主にソフト面、Ⅱ「教育環境の改善・充実」という主にハード面の2つの項目に分けて記載する。
- ・第4章は、計画や取組の周知、市民の皆様やボランティア・NPO団体との協働に関することや学校等との連携に関すること、第3期計画の検証方法に関することを記載する。

(委員からの意見)

異議なし

## (2) 第1章について

### (事務局説明)

- ・教育大綱の内容を反映し、子どもたちに育みたい資質能力として「自立・つながり・郷土愛」を掲げる。
- ・「自立」でしっかりとした個人を打ち立て、「つながり」で人と人との関係において互いを認め合う中で規範意識や道徳性を持ち、「郷土愛」で過去から現在、未来に伝統を受け継いでいくという意味を持たせ、「自立・つながり・郷土愛」とした。
- ・教育基本理念を『自立し 心豊かにたくましく 将来へ「つなぐ力」を育む』とする。
- ・教育目的（使命）を
  - 「みずからの将来を自らの力で切り拓く人材の育成」
  - 「ふるさと津山に誇りと愛着をもち、地域や社会に貢献・協力できる人材の育成」として方向性を示す。
- ・目指す子どもたちの未来の姿として、
  - 「夢や希望を自信をもって語れる人」
  - 「ふるさとを愛し、つやまが大好きな人」
  - 「人を大切に、人を認めることができる人」 の育成を教育基本目標とする。
- ・本市の総合計画や国や県が策定した教育振興基本計画の内容を踏まえたものとする。

### (委員の意見)

- ・「つながり」意味を多義的に捉え、色々なつながりを豊かに作っていける子どもたちを育てていきたいというメッセージとして理解しておく必要がある。
- ・「じりつ」の中に、自らを律し規範意識を育てる「自律」の意味も入ってもいいのではないか。
- ・基本理念・教育目的・基本目標と同じような言葉がニュアンスを変えて表現されていて、1番大切なのは何なのか、市民の方にはなかなか理解が難しいのではないか。
- ・資質能力と理念と目的と目標のはっきりした仕分けが分からないので、一目で分かりやすく整理されていると有難い。
- ・津山市が目指す教育には、子どもたちに育てたい力と、そのための具体的な手立てが見えるようにしてもいいのではないか。
- ・育てたい資質能力と基本目標は対応しているので分かりやすいが、基本理念や教育目的の位置づけを検討する必要がある。

## (3) 第2章について

### (事務局説明)

- ・第2章の構成としては大きく2つで、1. 教育を取り巻く社会経済情勢と 2. 国・県における教育目標・教育施策の動向に分け、以下の要点を記述する。
- ・1. 教育を取り巻く社会経済情勢

(1) 人口減少と少子高齢化の進行

人口減少と少子高齢化の進行により、学校のあり方を検討する必要性があること

(2) 家族形態と地域社会の変化

核家族化の進行により、地域や社会全体で親子の学びや育ちを支える環境を改めて整える必要があること

(3) 急速な技術革新

Society5.0の到来が予想される中で、複雑で予測困難な未知の場面においても、生きて働く知識や技能を習得することが重要であること

(4) グローバル化

グローバル化の進展に対応し、情報リテラシー教育や外国語、とりわけ英語教育の充実を図ることが重要であること

・2. 国・県における教育目標・教育施策の動向

(1) 第3期教育振興基本計画の策定

国の基本計画に関する記述

(2) 「令和の日本型教育」の構築を目指して（中央教育審議会答申）

「個別最適な学び」: 少人数指導やICT活用等の指導方法あるいは指導体制の活用によって、個に応じた指導の充実を図っていくということ

「協働的な学び」: 探究的な学習や体験学習を通じて、子ども同士あるいは多様な他者と協働しながら学んでいくということ

「個別最適な学び」や「協働的な学び」を通して、「主体的・対話的で深い学び」につなげる必要があること

(3) 第3次岡山県教育振興基本計画

今年2月に策定された岡山県の基本計画に関する記述

(委員からの意見)

- ・第2章は、第3章で検討する内容次第で、根拠となるデータや分析資料を追加してもらう可能性がある。

(4) 第3章について

①章の構成について

(事務局説明)

- ・施策の基本的方向性を「教育活動の推進・充実」「教育環境の改善・充実」に分類し、前者は主にソフト面の内容、後者はハード面の内容とする。
- ・「教育活動の推進・充実」では、育みたい資質能力を教育基本目標として(1)自立(2)つながり(3)郷土愛と項立てし、それぞれの目標に対し施策の方向性と具体的な取組を記載する。
- ・「教育環境の改善・充実」では、教育活動を支える環境づくりを基本的目標として、主に

ハード面に係る取組を方向性ごとに記載する。

(委員の意見)

#### 【自立】

- ・学校現場では失敗してもトライしたこと、失敗を次に活かすことを評価する視点も大事にしているが、具体的に数値化できないので成果として評価するのは厳しいのではないか。
- ・学校で大事にしている「自立」と計画でいう「自立」は少し捉え方が違うような気がする。
- ・「自立」を育むための取組内容は、学校がこれらの取組を要求されているのではないかという気がする。
- ・学力や知識技能の習得に加えて経験を積み重ねながら自信をつけることも自立に繋がると思う。
- ・政策を整理するための分類で、実践を整理しようとするリアリティがなくなる。
- ・数値化や評価ができる項目を並べていく必要がある。
- ・津山市がどういう学力をどのように育てることが政策の目標なのかというところを明確にして欲しい。
- ・施策の方向性で何を取り組もうとしているのか、見出しで分かるようにしても良いのではないか。
- ・未就学児でも自己肯定感や非認知能力といった見えない部分、心を育てることは主体性を育てる上で非常に重要だと思う。

#### 【つながり】

- ・「つながり」のためにこういうところを重点的にしますというのがもう少し見えてもいいのではないか。
- ・自己肯定感を育てることや他者を尊重するというところをもっと前面に出したら良いのではないか。
- ・子どもたち同士の自主的・集団的な関わりの中でお互いを認め合い、つながっていくような取組を期待したい。
- ・ダイバーシティ関係も位置付けて良いのではないか。
- ・学校教育と福祉や保健との連携を位置付けるのも大切ではないかと思う。

#### 【郷土愛】

- ・郷土愛を育むには国を知り愛することも必要だと考えるので、国や世界に目を向ける項目があってもいいのではないか。

#### 【教育環境】

- ・ I C T教育が進むと、通信環境の整備と同時に教職員の支援を行う人も含めた整備の必要性があると思う。
- ・ 建物等の物理的な整備だけではなく、学校・園をとりまく生活環境も検討する必要がある。

(5) その他

- ・ 第3回検討委員会の日程

令和3年8月23日(月) 13:30～

5. その他

なし

6. 閉会

須江副委員長あいさつ